

第7章 高齢者の多様な生きがいがづくり支援

現状と課題

わが国の平均寿命は世界トップレベルであり、今後もますます高齢者が増加していくものと予想されます。高齢者は身体機能の低下や定年退職、子どもの独立等の様々な理由により、閉じこもりがちになる傾向がみられます。また、閉じこもりは、認知症や寝たきりを発症させる要因の一つになり得ることもあり、高齢者を閉じこもりがちにしないことが、要介護の高齢者を増やさないことにつながるものと考えられます。

高齢者がいきいきと生活するためには、外に出て、友人や知人と一緒に過ごしたり、趣味の活動を行ったりといった、生きがいを持つということが重要です。その手法は様々で、地域活動への参加、ことぶきクラブ(老人クラブ)での活動などが挙げられます。また、就労やボランティア活動を通じて社会とのつながりを持ち続けることも、生きがい活動の一つとなります。

重点施策

- 1 ボランティア活動への支援
- 2 ことぶきクラブ(老人クラブ)活動や生涯学習活動への支援
- 3 高齢者就労の支援

施策の方向

1 ボランティア活動への支援

ボランティア活動を住民に広く周知してもらうため、ボランティア団体の活動内容や利用方法についての情報を、「広報ちゅうおう」やホームページなど、様々な媒体を活用し、積極的に提供します。

社会福祉協議会と連携し、これからボランティア活動をはじめたい人や既にボランティア活動を行っている人、グループなどすべての活動を支援するため、ボランティア登録制度などを充実させ、より効果的な活動となるよう、ボランティア組織のネットワーク化を進めます。

ボランティア同士の交流の場を確保・提供するとともに、必要な人に必要なサービスが行きわたるようにボランティアコーディネーターの体制整備を進めます。

ボランティアが安心して活動できるようにボランティア保険の加入促進を図ります。

新しいボランティアの形であるボランティアポイント制度の周知を図り、より多くの高齢者がボランティアに参加できるよう努めます。

2 ことぶきクラブ（老人クラブ）活動や生涯学習活動への支援

年代によるニーズを的確に捉え、前期高齢者からも積極的な参加が得られるよう新たな取り組みについても検討し、魅力ある“ことぶきクラブ”活動の推進が図られるよう支援していきます。

ことぶきクラブ連合会の活動を支援するとともに、活動に役立つ情報を提供します。

多くの団塊世代の人々が高齢者の仲間入りする中で、変化する高齢者のニーズに素早く応じられるよう、ライフステージに応じた体系的な学習プログラムの企画に努めるなど、生活課題や趣味、学習ニーズに応じた講座・セミナーの充実を図ります。

地域に昔から伝えられている行事や文化の伝承を行うことで世代間の交流を図るとともに、高齢者がこれまでに培った豊かな経験と知識・技能を伝える場として、学校教育との連携により、より多くの学校で高齢者の経験や知識を活かした事業を実施することで、異世代交流の充実を図ります。

多様化する学習活動に対応するため、豊かな知識、技術、生活の知恵を持った高齢者の協力により、指導者の育成・確保に努めます。

グランドゴルフ、歩け歩け大会、山梨ねんりんピック等、高齢者が参加できる（参加しやすい）スポーツ大会や催し物、スポーツ団体等の情報提供の充実を図り、積極的参加を促します。

生活の中に運動を取り入れられるよう、家庭や地域において高齢者をはじめ、誰もが取り組みやすい簡単な運動に関する情報提供に努め、健康増進や体力の向上を促進します。

3 高齢者就労の支援

高齢者のシルバー人材センターへの加入促進を図るとともに、事業の拡大のため、市内企業等へ受注できる仕事の内容等のPRの充実努めます。

シルバー人材センターの機能を拡充し、短期的な就業の機会を確保し、提供していきます。

豊富な経験や技術を持った団塊の世代の方々を会員として迎え入れ、インターネット等の技術を活用した新たな職種などを開拓していくことで、雇用機会の拡大に努めます。

シルバー人材センター会員のより一層の資質の向上を図るため、技術講習会や研修への参加を支援します。

県や関係機関とともに、定年の延長や継続雇用の促進など、企業側の意識改革の啓発に努めます。